

「自分の身を守るために」

宮崎県 川南町立山本小学校 6年 戸田 知里^{とだ ちきと}

昨年の6月3日、参観日の朝のことでした。

私たちが登校する時間帯に大雨が降り、いつも歩いている道に水があふれていて、通ることができない状態でした。それで登校する時刻は、朝 10 時になりました。私の家は山おくなので、9時 20 分に家を出ました。車で行くと、おどろいたことに道路脇の土砂がくずれていて、道をふさいでいました。ガードレールは木で押しつぶされ、めちゃくちゃに曲がっていました。私たちは来た道をもどり、ほかの道に行くことにしました。でも、その道の下は、水が増していました。道を通るときは、こわくてドキドキしました。なんとか道を通りぬけることができ、本当によかったです。土砂くずれだけでガードレールが曲がるくらい力があるということは、もし私たちが歩いていて土砂がくずれたら土にうまってしまう可能性があるということになると思います。そうすると、とても安全ではありません。そのための防止さくはないのかなと、時々思ったり、考えたりすることがあります。

また、今年の夏休み中に、私はテレビや新聞などで取り上げられた話題に関心を持ちました。それは、1 年前に広島で起きた土砂災害です。その土砂災害のぎせいになった人々は、75 人にもおよんだそうです。現在、新たな災害を防ぐために砂防ダムを造るなどの計画を立てているということでした。

中でも私に関心をもったことが、3つあります。

まず、昨年8月の広島土砂災害で、救助活動中に土石流に巻き込まれ、広島市安佐北消防署の政岡 則義さんが亡くなられたということです。私は住民を救助していて、命を落とされたと聞いたとき、とてもかわいそうだなと強く思いました。

次に、災害のあった場所に住みたくないという人がどんどん増えてきて、ひ災地区の人口が最大 16 パーセント減ってしまったことです。この意見に私も共感できました。私もこのようなことにあっていたら、絶対にこわくて、そんなところに住めないと私自身が思うと思うだろうからです。

最後に、県営住宅の上の山が土砂くずれになり、県営住宅に住む結こんしたばかりの夫婦の命をうばいました。おくさんのおなかの中には赤ちゃんがいたそうです。3人もの命を失うということは、とてもとても悲しく感じました。

土砂災害は急にやってくると思います。だからすぐに避難することができるように、どうすればよいのか考えていきたいと思います。

私がテレビを見ていたときに、身を守るためにすることが3つ挙げられていました。

1つ目は、ホームページ・テレビ・ラジオで確認することです。テレビでその時の様子をすぐ確認し、ラジオを持って避難をします。

2つ目は、家の周りなどの危険か所を確認することです。早めに家族と計画していきたいです。

3つ目は、ほかの地域であった災害でも早めに避難することです。ここには来ないだろうと安心していても、急にきて巻きこまれてしまうこともあります。自分の地域でなくても、近くで起きていればすぐにその場からはなれることも大事だと思います。

私の家では、危険か所を確認していないので、まずは危険か所を確認し、早くにげられるように、水・非常食・ヘルメット・かい中電灯などを準備しておきたいと思います。